
覆面小説家の憂鬱

神村律子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

覆面小説家の憂鬱

【Nコード】

N0556J

【作者名】

神村律子

【あらすじ】

私は小説を書くのが趣味の女。

私は趣味で小説を書いている自称小説家。

公募に何度か投稿しているが、まさしく「かすりもしない」が続いている。

もうそろそろバカな夢を追うのはやめようと思いかけていた。

そんな矢先、ある投稿サイトで、「覆面小説フェア」を開催していると掲示があった。

特に参加資格はなく、サイトのメンバーであれば誰でもOKらしい。

私はこの参加を最後に小説を書くのをやめようと思い、参加申し込みをした。

そして私は一編の短編小説を書き上げた。

仮名を考え、投稿する。

参加者は全部で二十名。あまり他のメンバーと交流がない私は、他の作者の作品を推理するなんてできず、全く普通に読者として読み、感想を寄せた。

推理サイトにアクセスし、他の人達の分析を読んでみる。

なるほど。読点の癖とか、言い回しの癖とか、いろいろあるものなのね。

今まで自分の癖など全く意識した事がないので、それはそれで勉強になった。

そんな他人の推理を読み進めているうちに、私も分析をしてみようと思えるようになった。

この作品はあの人かな？ でも、成り済ましの可能性がある。

これは間違いなくあの人だ。癖を隠そうとしているけど、語尾の「のだ」が頻繁に使われている。

そして改行をあまりしていない。

そんな事に気づき始めると、推理が楽しくなってきた。

そんな中、ある事に気づいた。

私の作品だけ、誰も推理してくれていない。感想も寄せられていない。

何だか悲しくなった。

確かに他の人達の作品は、どれも練り上げられたもので、とても太刀打ちできないものだけだ。

酷評でもいいから、何か言葉が欲しい。

そんな思いを抱いた。

そして数日後。

私の作品をようやく推理してくれた人がいた。

全然わからないらしい。しかも、全く別の人と判断している。

これは喜んで良いのだろうか？ 何となく落ち込む。

その人は感想欄にも書き込みをしてくれていた。

うーん。私の思い描いたのとは違う解釈だ。

仕方ないと思うけど、残念だな。

でも、評価は良かった。酷評じゃないだけマシだと思った。

更に数日後、遂に推理の締め切り日が来た。

私の作品は最後まで誰も当ててはいなかった。

これは凄い事なのだろうか？

寂しかった。私の事を皆知らないだけなのだ。

だからわからなかった。

今回のフェアで覆面を被り通したのは、私ともう一人だけだった。

もう一人の人は、この企画の常連で、いつも意外な作品を書いて逃げ切っている人だった。

彼は皆の賞賛を浴びていた。

えっ？

その時、初めて気づいた。

「あのファンタジーを書いている人とはとても思えないくらい強烈なホラーでした」

そういう感想が、私を賞賛する言葉の中にあっただ。

「そうそう、全然わからなかった。文章も全く雰囲気が違うし。凄い人です」

そんな……。

今までマイナスな事ばかり考えていた私が、初めて抱いた感情。

「小説書いていて良かった……」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0556j/>

覆面小説家の憂鬱

2010年12月13日21時56分発行